

（業務報告案、業務計画案は印刷物を配布し、その他はスライドにて紹介）

1. 理事長挨拶

吉田理事長より、天災の多い年で被災地の復興を祈念することが述べられた。また、活性化と若手会員増への取組、また他学会との連携なども一層進んでいて、さらなる発展を望むことが述べられ、また、第25回学術年会については音原年会長に感謝の意が表された。

2. 報告事項（資料に沿って担当理事より報告された）。

1) 事務局報告（大槻）

会員動向会費納入状況およびバナー現状について報告された。会費納入は年度末に30名強が未納で注意喚起を促したい由、述べられた。またバナーについて会員を中心に掲載への声掛けを一層努め、バナー数増加に向けて進めるが報告された。

2) 学術年会報告

(1) 第24回（@十和田）：大槻総務担当理事より報告され、年会賞、学生・若手優秀発表賞の選出も再度報告された。

(2) 第25回（@つくば）：野原理事（年会長）より挨拶があり、新しい試みで、非会員での発表の試み、若手セッションも9題と多く感謝する由、述べられた。またSOT/ITSSとの協力プログラムなどもあるため、是非、楽しんで、そしてテーマ通りの「徹底討論」をお願いしたい由、報告された。

(3) 第26回@北九州）：総会後半に挨拶。

3) 委員会報告

(1) 学術・編集委員会：角田理事（委員長）より以下が報告された。

① 委員長交代：2018年4月より、角田理事が委員長となった。

② ニュースレター：新藤編集委員長によってニュースレターは計2号発刊され、編集委員長の努力により、出版社に委嘱せずに発刊することで、経費節減が適っていること、まだWEBで見やすいように1段組を採用した。

③ 学会賞・奨励賞選考小委員会：9月18日に授賞式と受賞講演が行われるように、学会賞には手島理事、奨励賞には串間理事が選出された。

④ SOT/ITSSへのJSITからの投稿：ITSSの発刊するニュースレターの2017年の冬号から年に1回JSITからの寄稿が掲載されることになり、初回は吉田理事長に執筆頂いた。2018年は中村理事、2019年は西村編集委員が執筆予定であり、所掌は西村委員が行っている。

(2) 広報委員会：大槻理事（委員長）より以下が報告された。

① バナー広告：事務局報告で、今後も増加に向けて努力することが合意された。

② ML (Mailing List)：平均月2通前後で配信できている。

③ Web管理：情報に合わせて、適宜更新している。

(3) 試験法委員会：久田理事（委員長）より以下が報告された。

- ① 学術年会ワークショップ：今回は免疫チェックポイント阻害剤に焦点を当て、3名の演者とパネル・ディスカッションを予定している。
 - ② AOP 検討小委員会：資料に沿った報告があり、内部レビューを終了し、外部レビューを受けている。また、3件のAOP事例の作成に当たる予定であることが報告された。
 - ③ JaCVAM 関連では、東北大・相場教授による MITA assay について、現在第2段階で20化合物について validation を実施しており、10月4-6日に対面式会議がある由、報告された（井上委員）。
- (4) 連携学会委員会：吉岡理事（委員）より以下が報告された。
- ① 日本毒性学会：2019年度の日本毒性学会（@徳島）では、日本免疫毒性学会との合同企画として、特別公演+シンポジウムの企画が採択された。
 - ② SOT/ITSS から JSIT への派遣：第25回（@つくば）では Dr. B. Page Lawrence が招聘され、2日目に特別講演が実施される。
 - ③ JSIT から SOT/ITSS へ：Global Galley へのポスター展示も実施した。2018年（@San Antonio）、2019年（@Baltimore）では、日本免疫毒性学会提案企画が採択されなかったため、戦略を練って2020年（@San Diego）に向けて対応したい由、報告された。
- (5) 将来構想 WG：黒田理事（リーダー）より以下が報告された。
- ① 第25回学術年会については、声掛けなどの参加の案内、アクティブな研究交流、初年度参加費免除の試みを実施し、免除についてはアンケートの結果で、今後の継続について検討したい由、報告された。
 - ② 学生の発表については、全演題で短い口頭発表と共に、ポスター発表も並行して実施してもらい、ディスカッションを十分（特に審査員にとって）にする試みとなって、第26回に対しても提案することとなった。
 - ③ 将来構想メールメンバーを募集し、メーリングリストを構成する予定である。
 - ④ ImmunoTox Letter への参加を促すために、Short talks on the shoulder of giants 企画を開始した由、報告された。

4) 業務報告（案）：吉田理事長より資料に沿って報告され、承認された。

3. 審議事項

1) 会計：齊藤理事によりスライド資料に沿って以下が報告され審議された。

- (1) 2017年度決算案：概ね資料内容で了承された。
- (2) 2017年度監査報告：上野監査より監査報告が行われた。
→ 満場一致で決算案と監査報告が承認された。
- (3) 2019年度予算案：概ね資料内容で了承された。
→ 満場一致で予算案が承認された。

2) 人事

- (1) 理事・名誉会員：運営委員会では今回は推薦がないことが報告され（大槻理事）、承認された。

(2) 名誉会員：藤巻会員（理事、運営委員会、学術・編集委員長、第17回年会長経験者）を運営委員会から推薦されたことが報告され（大槻理事）、**理事会でも承認し、総会に推薦することが決定された。**

(3) 評議員：事務局（大槻理事）より4名の候補者の略歴および業績目録が回覧された上で、審議の結果、4名の候補者すべてを、**理事会として総会に推薦することが承認された。**

- 久保千代美会員（483番）中外製薬株
- 吉田安宏会員（561番）産業医科大学
- 美谷島克宏会員（655番）東京農業大学
- 立花雅史会員（667番）大阪大学

→ **次年度からの応募書類には、会員歴と年会での発表歴も推薦用紙に記載を求めることが決まった。**

(1) 2019年年会長：吉田理事長より角田正史理事（防衛医科大学校）が推薦され、**全会一致で、認められた。**

3) 事業計画（案）吉田理事長より資料に沿って報告され、**承認された。**

4. 佐藤次期年会長：挨拶。2019年9月9～10日に北九州国際会議場で開催されること、「免疫毒性 基礎から臨床へ」をテーマとすることが報告された。協力として産業医科大学産業生態科学研究所 呼吸病態学・森本泰夫教授、同第一内科学（膠原病、内分泌内科）田中良哉教授、同呼吸器内科学 矢寺和博教授に了解を得ており、テーマに沿って臨床的な側面も考慮していることが報告された。加えて、学会前日は、市民公開講座を実施し、内容的には免疫系に作用する薬剤について、北九州市内の臨床医、基礎科学者、投与を受けている患者にも公園を依頼し、北九州市民に広く、免疫学、免疫毒性学、これらの臨床への応用について関心と理解を深めたいということが報告された。
5. 角田次々期年会長：挨拶。都内の会場を考慮中で、2020年は五輪・パラ五輪の年であるが、9月ならば都内でも開催は可能であろう。テーマや期日などが決まり次第、報告していく由、報告された。

以上；文責 事務局（大槻）